

団体名 糸満市立高嶺小学校	連絡先 TEL : 098-994-2310 Eメール : takasyo@takamines.ity.itoman.okinawa.jp
------------------	--

1 実践事項（幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携（幼小・小中・中高・地域））

タイトル：「地域人材を活用した学力向上の推進」

2 実践内容

コミュニティスクール実践校としての取り組み

（1）授業における学習支援（南山会）

算数を中心に授業中のつまづきを、その場その時に指導してもらうため、積み残しを減らすことができ、次時の学習へスムーズに入ることができる。また、3学年では毛筆を初めて習うということで、毎時間、書写の時間にも入ってもらい、「筆の持ち方」、「とめ」、「はね」、「はらい」等、基礎的な技能も教授してもらっている。

（2）放課後の学習支援（ゆいまーる塾）

国語・算数を中心とした基礎的・基本的な内容の支援を行っていただいている。低学年の段階から、復習を中心に繰り返し問題を解くことで、既習内容の定着を図ることができる。知識の習得に留まらず、学ぶ楽しさや、自ら進んで学習することの大切さを身に付けることも目標に取り組んでいただいている。

（3）体験活動を重視した授業づくり

①野菜作り体験

地域の農家を招き、畑の畝づくりや苗の植え方を学び、自分たちで作物を育てることで、野菜作りの工夫や、食物の大切さを学んだ。（2学年）

②地域の歴史探検隊

白銀堂や山巔毛、他魯毎の墓等を巡り、地域の良さや先人の思いを考える社会科学習において、歴史に詳しい地域の方を招聘し学びを深めた。（4学年）

③稲作体験

総合的な学習の時間を中心に、種籾の芽出しから、植え付け、収穫までの一連の作業を、専門的な立場から指導してもらい、稲作の方法や農家の工夫・苦勞について学ぶことができた。（5学年）

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



4 成果

- ・地域の方とコミュニケーションを図りながら、支持的風土のもと学習課題に取り組むことで、子どもの分かるようとする意欲の向上、学習内容に対する理解の深化が見られた。
- ・野菜作りに収穫、両方の体験を行うことで、「農業」に対して多面的に理解するとともに、農家の方への感謝、畏敬の念を育むことができた。

5 課題

- ・地域人材の活用において、同じ方に依頼することが多く、新たな人材の発掘が必要と考える。
- ・各学年の発達段階を考慮しながら、体験的活動を系統的にカリキュラムへ位置付けたい。